



## 失敗を失敗のまま終わらせてしまうことが本当の失敗

副校長 柴田 英文



子どもはたくさん失敗をします。(大人もしますね) そんな時、大人としてどのように子どもにかかわったらよいのか、親も教師も悩むところです。

子どもの成長には褒めることがよいと以前「たいさんぼく」でお伝えしましたが、同時に叱ることも、実は同じくらい重要だと思います。

しかし、褒める時より、叱る時の方が難しい。叱るつもりがアングリーな感情になって、良い結果を生まないことが多いからです。私自身、親としても教師としても接し方を反省したり、結果を後悔したりした経験がたくさんあります。

多くの子はたくさんの失敗を繰り返しながら、失敗を糧に成長します。その時に上手に叱られた子は、「もう一度、チャレンジしよう!」と考えることができます。

しかし、叱られ方によっては、「失敗するのが怖いから、何もしないようにしよう…」と、せっかくの経験を封印し忘れることで終わりにしてしまう場合もあるかもしれません。それでは、失敗を失敗のまま終わらせることになってしまいます。

どのように叱れば、子どもの成長に結び付けることができるか。私は次の3つのポイントが大切だと思います。

ポイント1は、「叱る理由は伝わっているか」です。善悪を分からせる時は、一貫した強い姿勢で叱ることがあります。しかし、感情的に叱責されると、多くの子は「この人は、ボク(私)のことを嫌いになったんだ。」と、ネガティブな感情や絶望感を持ち、子どもに効果があがらないと言われています。叱る理由が子どもに伝わるように説明を十分にすべきです。

ポイント2は「YOU 言語より I 言語」で接することです。

YOU 言語とは「どうしてあなたはいつもそうなの!」のように YOU を評価した叱責です。

これに対してI言語は、「これを○○されると、私は大変困ってしまう。だって、○○ができなくなるでしょう。もうしないで欲しい。」とI(大人の私)の状況を伝える叱責です。この少しの違いにより、相手の都合や心情を理解できる子が育つと思うのです。

ポイント3は、失敗しても次の目標を定めることです。これがあると、叱られてもやる気は失われません。

例えば、何かをうまく作れなかった時「なんて、おまえは不器用なんだ、私にかしてごらん」と言って子どもの再チャレンジを奪ってしまうと、本人はがっかりして、時には反発することもあります。

「それを上手に作りたいなら、この材料で練習してからやってごらん」と、新たな目標を設定してあげると、失敗しても目標を見失わない習慣が身につきます。

1学期終業式まで残り13日です。叱られてもポジティブに次の目標を持てる習慣を、小学生のときに身に付けるように育てたいものです。「失敗を失敗のまま終わらせてしまうことが本当の失敗」です。

7月の芝刈りの予定 午後3時半頃より行いますので、ぜひご参加ください。

1日(金)	4日(月)	6日(水)	8日(金)	11日(月)	13日(水)	15日(金)
18日(月)	20日(水)	22日(金)	25日(月)	27日(水)	29日(金)	